

4 段階評価 4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

学校経営 ビジョン	夢や目標をもてるよう「導き」、身に付く力となるよう「鍛え」、一人一人に「寄り添い」ながらニーズに合った指導や支援を行い、成長や変化を「見届け」て工夫・改善に取り組むことで、児童が「明日も行きたいと感じる学校」の実現を目指す。
--------------	--

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	結果の考察・分析および改善策等	自己 評価	関係者 評価	学校関係者評価のコメント
知 育	重点目標： <u>学力の向上</u> 手段： 1 「ひなたの学び」を意識した日々の授業実践 2 自分の考えや思いを豊かに表現する力の育成 3 進んで読書に取り組む児童の育成 4 家庭学習に工夫しながら取り組む児童の育成	1 について (1)今年度の主題研究では、「ひなたの学び」に関する研修や研究授業を実施してきた。具体的には、指導主事を招いて基本的な考え方や授業での実践方法を学ぶ理論研修を行うとともに、研究授業の事前・事後研究会を実施し、全職員で研究授業を行う実践研修も行った。その結果、授業改善につながったと考えられる。 (2)年度当初に「学びの土台」を全職員で共通理解し、全校で統一した指導を継続した結果、子どもたちは基本的な学習習慣や規律が身につけている。単元テストでは目標をほぼ達成しているものの、個人差が見られるため、今後も紙屋タイムや家庭学習を活用して指導を行っていく必要がある。 (3)日頃から各学年で ICT を積極的に活用し、授業の充実を図っている。今年度はスマイルネクストやドリルパークを導入し、授業だけでなく家庭学習にも活用することで、個別最適な学びを進めてきた。その結果、職員・児童の ICT スキルも向上している。新しいタブレットが導入されたため、さらに効果的な活用に向けた研修を行いたい。 2 について (1)対話的な活動を意図的に取り入れて授業改善を進めてきた結果、話を聞いたり自分の考えを伝えたりする力が育ってきた。しかし、考えを練り合う段階での話し合い活動は、まだ充実しているとは言えない。今後は、教科や問題の本質をとらえながら考えを練り合う活動について、さらに研究を深めていきたい。また、授業内外におけるスピーチや日常指導も引き続き継続していく必要がある。 (2)今年度は一徳祭において、各学年の学習内容や児童の実態に応じた音読発表会を実施した。また、家庭での音読にも継続的に取り組むことで、児童が音読に親しむとともに、個人や全体の知識・技能の向上につながったと考えられる。 (3)今年度は、多くの児童がさまざまな賞を受賞した。入賞者を全体の場で表彰することで、達成感を味わうとともに、作品応募への意欲も高まった。また、作品作りに取り組む経験は、児童の表現力の育成にもつながった。 3 について (1)学年部に応じた年間読書数の目標はおおむね達成することができたが、学校図書館の利用者が少なかったり固定化されていたりする課題があり、全体での読書冊数は伸びなかった。図書委員会の活動や図書支援員との連携、ひなた電子図書館の活用を図り、更なる充実を進めていく必要がある。 (2)読み聞かせが定期的にあることで、本への興味関心が高まっていると感じる。毎月第3水曜日を「家読の日」と定め、取り組むことで、家でも読書をする習慣が少しずつ身に付いてきている。 4 について (1)年度当初には、紙屋タイムで全校児童に指導したり、学級懇談会で保護者に啓発したりするなど、家庭学習の手引きを活用した指導・啓発を行った。また、小中学校で「家庭学習振り返り週間」を設定し、児童と保護者の双方が家庭学習を見直す機会とすることができた。 (2)各学年の実態に応じて家庭課題を精選し、児童が無理なく継続できるよう工夫しながら取り組んできた。その結果、学習習慣の定着や理解の定着に一定の効果が見られた。しかし、取り組み方にはまだ個人差が大きく、家庭学習の習慣化や学習内容の定着をさらに高めるためには、今後も継続的な指導と家庭との連携が必要である。	3.0	3.7	・「学びの土台」の共通認識は、教育者としての資質の見直しにもなり、最高のスタート！ ・「紙屋タイム」「スマイルネクスト」「ドリルパーク」の導入で個別最適な学び達成とのことで、現代らしい学びの在り方、実に素晴らしいです。反面、家庭で親はどのように介入できているのかなど不安もあります。 ・音読利用の録音による園児や高齢者へのボランティア活動を次年度こそは実践できると良いのですが。茶のん場、サロンでも待っていますね。 ・最近、新聞に紙屋小の子どもたちの作文が少なくなってきたと聞きました。 ・分かりやすく、深みのある授業のために全職員で研究授業に取り組まれ、その事前・事後の話し合いも密にされており、児童の授業への理解力もついてきていると思う。先生方の努力に感謝しています。 ・一人一人に寄り添った個々に応じた指導がされ、苦手意識がなくなり、宿題も意欲的に進めている。 ・一徳祭での音読発表会では、各学年の内容がとても工夫されていて、人前で発表することで自信につながったと思う。 ・毎日、字の書き取りをすることで、児童の字がとても丁寧でしっかりと力強く書かれていると思う。ただ、書く時の姿勢や目が近い子もいるので今後の指導をお願いしたい。 ・低学年からタブレットに触れる機会があり、無理なくタブレット操作ができてきていると思う。 ・一人一人の学力向上へ向けた色々な取組ができていると思います。 ・1、2については、紙屋小学校という船に乗り、先生も児童も同じ目標に向かっていく状態になれているように感じます。そのおかげで授業改善につながり、単元テストの目標も達成でき、ICT スキルも向上と良い成果につながったと思います。また、全体のみでなく、個々のやる気を引き出すための「入賞者を全体の場で表彰」という方法もすばらしいと感じました。 ・3については、ICT の発展や本から離れていく時代の中で、年間読書数の目標を達成できたことは、すばらしいと思いますが、利用者が少なかったことは仕方ないことかなと思います。 ・4については、各家庭のやり方があるため、取り組み方には差があれど、継続をしていただきたいです。 ・様々な作品展等への応募や新聞等への投稿等、積極的にされており、見聞きする楽しみがあります。
	徳 育	重点目標： <u>豊かな心の育成</u> 手段： 1 基本的な生活習慣の形成 2 思いやりの心の育成 3 学校や地域のために貢献する態度の育成 4 いじめ・不登校の未然防止と早期発見・早期解決 5 「自分の命は自分で守る」意識の醸成	1 について (1)小中合同あいさつ運動を年に3回実施したり、運営委員会での話し合いをもとに、4月あいさつ運動を行ったりしたが、あいさつの日常化は十分とは言いきれない。代表委員会で話し合わせ、「あいさつ・会釈指導週間」を有効活用し、全校で具体的な指導及び振り返り活動を行いたい。また、運営委員会を中心に、日常的に気持ちの良い挨拶ができるような手だてを考えて実施していく必要がある。 (2)服装など学校のきまりについては、全職員での共通理解を図るとともに、紙屋タイムで全児童に向けて、指導をする機会を設けた。帽子をかぶる、服装の乱れなどは、全職員共通して今後も繰り返し指導を継続していく。SNS 活用についても全校朝会等で全体に指導していく。 2 について (1)計画的に実施できたので、引き続き人権週間を設け、全職員で取組情報の共有を図る。 (2)校内支援委員会で全職員に共通理解を図ることができた。個別の教育支援計画、指導計画も100パーセント作成できた。エリアコーディネーター、エリアメンターの巡回訪問を行い、適切な支援につなげることができた。	3.2	3.5

		<p>3について</p> <p>(1)年4回縦割り班の清掃場所を交代した。その都度、紙屋タイムでの清掃指導を行い、正しい清掃の仕方を全児童に伝えた。清掃班会も行うことで、担当場所・担当職員で清掃の仕方や手順を押さえることができた。まだ箒の使い方など、十分でないところもあるので日常の清掃の中で指導をする必要がある。</p> <p>(2)各学年、一徳祭などの時間に環境について学習し、理解を深めることができた。外部講師も活用し、しっかりと学ぶことができた。</p> <p>(3)総合的な学習の時間やこすもす科、生活・社会科などの学習の中で、地域学習を行い、地域のよさや特産物等について学んだ。上学年は、城攻め踊りの歴史を学び、地元の祭りに参加し、城攻め踊りを踊るなどして地域への思いを深めることができた。</p> <p>(4)城攻め踊りや七夕飾り、昔の遊び、ミシン等色々な教科で大いに協力していただいた。次年度も協力を依頼したい。</p>		<p>話せるようになると思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・帰りの会で友だちのよさを見つけ合う機会を設けておられ大変良いと思います。一人一人を認め、友だち意識も深まると思います。</li> <li>・気になる行動をする子に校長先生が気長に話をされている姿を見ました。担任の先生だけでなく、いろんな人の意見や導きがあり、その子は確実に成長すると思います。ありがとうございます。</li> <li>・あいさつ運動をとおして誰にでもあいさつのできる豊かな心が育っていると思います。続けていけるといいなと思います。</li> <li>・1について、あいさつの日常化が十分と言えるくらいに継続していただき、気持ちの良いあいさつというより「あいさつをすると気持ち良い！」と児童が思えるくらいに、あいさつを当たり前にしてほしい。</li> <li>・2について、個別の教育支援計画、指導計画を実施した結果を知りたいです。</li> <li>・3について、一生懸命に掃除を行い、地域の方々から協力を得られるところは紙屋の良いところだと思います。引き続き、学校と地域の方々との絆づくりをしていただきたいです。</li> <li>・4について、アンケートや教育相談で全職員が情報共有できていることはすばらしいと思います。ただ、月1回と固定せず、状況に応じて回数を増やしていただくと良いなと思います。友だちのよさを見つけ合う機会が良いと思います。次は、「自分で褒めたいところ」を表現できるようにになれば、もっと自己肯定感が高まりそうだと感じました。</li> <li>・5について、是非継続していただきたいです。</li> <li>・信号機の所で見守りをしていると元氣よくあいさつしてくれ、上級生が並んで登校する姿を見ることが出来ます。登下校で事故等に合わないことを願うばかりです。</li> </ul>
		<p>4について</p> <p>(1)毎月1回、悩みアンケート、教育相談を実施することによって、早期発見し素早い対応ができている。月1回スマイル委員会を実施し、全職員で情報共有ができ、困難な課題についても話し合うことができた。今後も計画的に開催していきたい。</p> <p>(2)帰りの会等で、学級の友達のよさを称賛する場を設ける学級が多く、互いのよさを認め合う機会を作っている。運営委員会主催で「ありがとうの木」の取組を行い、友達のよさを見つけ合う機会を設けた。教室掲示をすることで自己肯定感を高めることにもつながった。</p> <p>(3)日常生活の中で児童との会話を行うように努めている。気になる件については、担任だけでなく管理職や専科の先生など複数の先生から情報共有できている。しかし、気になる児童もいるため、継続して見守り、指導していく。</p>		
		<p>5について</p> <p>(1)年2回の立ち番指導を実施し、始業の日や終業の日、長期休業前などの集団下校や地区児童会の場で登校班での指導を徹底できた。今後も継続して計画的に行いたい。交通事故0が継続できている。</p> <p>(2)風水害を想定しての保小中合同避難訓練を実施した。各職員の担当や保護者の流れ、すべてにおいてスムーズに行うことができた。次年度も継続して行っていく。地震、不審者対応、火災の避難訓練も計画的にできた。</p> <p>(3)避難訓練や長期休業前等の紙屋タイムでの指導で命を大切にする教育が実施できた。継続して行っていく。</p> <p>(4)保護者引き渡し訓練は事前の連絡や保育所、中学校との連携がうまく図れたので有意義であった。家庭訪問や学級懇談だけでなく、必要に応じて保護者と話すように心がけており、連携が取れていた。</p>		
<p>体 育</p>	<p>重点目標： <u>体力の向上</u></p> <p>手段： 1 体力向上の推進 2 規則正しい生活習慣の育成 3 健康に対する意識の向上 4 安全「自分の命は自分で守る」意識の醸成</p>	<p>1について</p> <p>(1)体力テストABC判定児童の割合は、79%で数値目標をほぼ達成している。特に、2年、3年については良好な状態である。しかし、DE以下の判定児童が3学年以外に1名ずつはいるため、日常的に運動に慣れ親しむ必要がある。そのため、体力向上プランを作成し、全校的に外遊びの推進や紙屋タイムの充実を図る必要があるが、外遊びをする児童は固定化しており、外遊びをしている児童は90%に達していない。縄跳びカードや持久走カードを使って昇級の賞状を配ったり、紙屋タイムで高学年が難しい縄跳びの技を紹介したりして、「自分も跳びたい、できるようになりたい」といった機運を高める仕掛けを行いたい。また、体育の授業の中で運動場サーキットを行い、多様な筋肉を使い、多様な動きにも触れさせていきたい。特に、体づくり運動をとおして体をバランスよく使うコーディネーション能力を育成していきたい。</p> <p>2について</p> <p>(1)朝ごはんについては、摂取率100%だが、早起きについては85%、早寝については70%と、早寝早起きに課題がある。メディア使用時間の長い児童ほど早寝早起きができていない傾向があった。今年はメディアコントロール推進のための指導や講演も多く行った。早寝早起きの指導と並行して、啓発していく必要がある。肥満傾向については14%で今年度は目標クリアできた。</p> <p>3について</p> <p>(1)授業の始まりと終わりに授業あいさつの指導の中で、各学年学級において立腰指導を行った。姿勢の悪い児童は固定化してきている。今後も、常時、担任の授業時に声掛けをする。また、集会などで立腰指導をする。</p> <p>(2)鉛筆の握り方・箸の持ち方については、できていない児童もいるので、その場での指導の徹底を図った。約2か月に1回定期的にチェックを入れているものの、できていない児童は固定化している。箸の握り方については、食育指導やこすもす科などで行う機会がある。これらの指導を通して、正しい握り方を意識する児童を増やしていきたい。</p> <p>(3)むし歯の治療では、治療率が45%と、昨年度より低くなっている。PTA 保体部でも参観日で呼びかけをするなどして、3月までには、1人でも多く治療してもらうことを目指す。</p>	<p>3.0 3.3</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児期からの縄跳びへの意欲は続いていないのでしょうか。次々できなかつたことのできるようになる喜びを味わってほしいです。</li> <li>・食生活、生活習慣が身に付いてこそその学力向上かなと思います。家庭教育学級等でしっかり取り組んでほしいです。</li> <li>・箸の握り方については、保育園や家庭で育成されているべきはずなのにできていないということは、子どもに自由にさせてしまったためにできなかつたのか、孤食の結果なのか心配になります。</li> <li>・体力テストの分野だけでなく児童は鉄棒、縄跳び、一輪車、バドミントン、バレー、サッカーと昼休み等を利用して本当に一生懸命に取り組んでいます。その頑張る過程も褒めてあげたいと思います。</li> <li>・「ずっとゲームをしていた」「11時まで寝ていた」等の話を児童から聞くことがあるが、休日の使い方についても児童だけでなく保護者に対しても、どうしてそれではいけないのかと、考える場を作ってほしいと思います。</li> <li>・グラウンド等で元氣よく遊んでいる姿を見かけるのでいいなと思っています。</li> <li>・1について、高学年になってしまうと運動習慣をなかなか作れないと思います。低学年から運動習慣をつけてもらいたいです。</li> <li>・2について、朝食の摂取率100%はすばらしいです。早寝早起き頑張ろう！</li> <li>・3について、姿勢や鉛筆の握り方、箸の持ち方はすぐにはできなくても、一度できてしまえば永く継続できるものだと思います。継続指導をお願いします。</li> <li>・合同運動会では体力差があるのに、中学生の中において一生懸命頑張っていると思います。持久走も頑張りました。</li> </ul>

食育	<p>重点目標： 望ましい食習慣の育成</p> <p>手段： 1 望ましい食習慣の育成 2 食を通じた感謝の心の醸成 3 家庭・地域等との連携による食への意識の向上 4 安全管理の徹底</p>	<p>1について</p> <p>(1) 日常の給食指導については、どの学年も年間指導に基づきながら実施している。</p> <p>(2) 残食についても、各学年の担任の指導のもと、残さないで食べる指導がされているので、ほとんど残食がない。これからも、残食0を目指し指導の徹底を図る。</p> <p>2について</p> <p>(1) 今年度は夏季休業と冬季休業で弁当の日を計画した。夏季休業においては、実施率98%とほとんどの児童が弁当づくりに取り組むことができた。冬季休業においては、期間が短いことを鑑み、お弁当づくりに限らず、おかずを1品以上作ることにした。</p> <p>(2) 3-(2) 記載。</p> <p>(3) 給食感謝週間は1月実施であり、12月に給食センターや各業者あてに、感謝のカードを書いている。業者の方がみえてるときなどにも挨拶をしたり、「いつもありがとうございます。」と声をかける児童もいるので、そのようなすばらしい児童の紹介なども今後集会などで紹介していけると、より一層感謝の気持ちが持てる児童の育成ができるのではないかとと思われる。前述の良い習慣の例などを全校集会などで賞賛するとともに道徳教科等と連携を図って指導を展開していく。</p> <p>(4) 給食配膳時に学担当が当番指導を行う際、養護教諭と連携を取りながら当番の衛生管理や均等配膳等についての指導を行ってきた。</p> <p>(5) 第1学年のクラスでは、栄養教諭と養護教諭が連携して給食を題材にした栄養指導を行った。その際、保護者にも指導内容を公開した。今後とも学担当と養護教諭が連携して栄養指導を行っていきたい。</p> <p>3について</p> <p>(1) 専科や外部講師を招いた食育指導が多くあった。食に触れる機会を多くいただき、子どもたちも食への興味関心を持つことができた。</p> <p>(2) 今年度は、生徒指導部や用務員に多くかかわっていただいた。一人一鉢の実施や、花壇の花植え、学年によっては芋栽培、稲作体験・野菜作りの実施ができた。今後も野菜づくりやサツマイモ、コメなどの各種栽培を積極的に行っていく。</p> <p>(3) 2-(3) に記載。</p> <p>4について</p> <p>(1) 給食当番については各学年の担任の指導のもとしっかりと指導できていた。今後とも継続的に指導を展開していく。</p> <p>(2) アレルギー対策については、アレルギー調査を実施し、アレルギーのある児童に関しては、保護者と細やかな面談を行うことができた。また、アナフィラキシーの職員研修を実施した。アレルギー食があった日には、担任に声かけをして間違いのないようにしている。食物アレルギー事故0であった。今後とも給食配膳時に除去食の適正管理と指導を行っていく。また、アナフィラキシーの職員研修を実施していく。</p>	3.2	3.6	<p>・まず、「命をいただきます」の基本的なことから「いただきます」の言葉や感謝の気持ちを各々に広げてもらいたいです。</p> <p>・食物アレルギー事故のニュースを聞くたびに心が痛みます。「事故0」は当たり前ではないので、今は先生方の努力の賜物です。ご苦労様です。今後ともよろしく願います。</p> <p>・地域の方々が指導される栽培活動や中学生と一緒にする稲作体験等、とてもすばらしいと思います。児童はとても楽しんでしているし、それが食育にもつながっていくと思います。</p> <p>・給食の時間に献立紹介が児童放送であります。その中でいろんな食材やその効能を知らせる場面もあり、大変良いと思います。食への関心も深まると思います。</p> <p>・一人一人に鉢があり、その成長を児童は嬉しそうにしている。花壇の花植え等、土や花に触れる機会がたくさんあり、児童はほっとした気持ちや心が豊かになると思います。</p> <p>・給食の残食が無いのは良いことだと思います。また、給食を作っている方々への感謝も忘れず良い取組をしていると思います。</p> <p>・1について、残食が無いことはすばらしいことです。しかしながら、子どもたちの給食への満足度はいかがかなと思いました。</p> <p>・2について、食について興味・関心を抱き、感謝することができることはすばらしいことです。今後料理をすることの楽しさ大変さを理解するためにもお弁当作りを感謝の心を忘れないようにするためにも、給食感謝週間は継続してもらいたいです。</p> <p>・3について、スーパーに行けば食材が買える時代なので、各種栽培をすることで、農家の方の苦労や喜びを体験できることはすばらしいと思います。</p> <p>・4について、アレルギー事故0であり対策もできていることは安心できます。しかしながら、アレルギーのない子どもの知識はいかがでしょうか？子ども同士でふざけて食べさせ、アレルギー事故が起こらないようにしてほしいです。</p>
	その他	<p>教職員の働き方改革</p> <p>手段： 1 リフレッシュデーの実施 2 全職員による施錠管理</p>	<p>1について</p> <p>(1) リフレッシュデーだけでなく、その他の曜日でも17時30分の退庁は実施できている。令和7年中の年休取得は平均15時間以上を達成している。</p> <p>2について</p> <p>(1) 職員による施錠ができています。教頭等、特定の職員が遅くまで残って施錠する状況にはないため、誰でも自分の都合で早く退庁することができている。</p>	3.2	3.5

<p>次年度の方向性についての校長所見</p>	<p>本年度の成果と課題及び次年度に向けた取組について</p> <p>小規模校ならではのよさを活かしながら学校教育目標「自己を鍛え、心豊かで、自信をもって行動する児童・生徒の育成」の具現化に努めた。地域や家庭の協力のもと、児童が着実に成長している様子がわかる。</p> <p>1. 知育（確かな学力の定着） 「ひなたの学び」やICTの日常的な活用により、基礎的な学習習慣やスキルの向上があった。一方で、話し合い活動における思考の深まりや、学校図書館利用者の固定化が課題として挙げられる。今後は、対話的な学びの質を高める授業改善を継続しつつ、図書委員会や電子図書館を活用した読書活動の活性化を図りたい。また、家庭学習においては個々の定着度に合わせた指導を強化し、主体的に学ぶ姿勢の育成を目指したい。</p> <p>2. 徳育（豊かな心の育成） いじめアンケートや「ありがとうの木」の実践により、早期発見・対応と自己肯定感の醸成が進んでいる。あいさつや清掃活動も定着しつつありますが、日常的な習慣化や道具の正しい扱いには個人差が見られる。今後は、児童会を中心としたあいさつ運動や具体的な清掃指導を反復・継続します。また、互いの良さを認め合う活動を通じて、規範意識と他者への思いやりを育み、安心・安全な学校づくりを推進する。</p> <p>3. 体育（健やかな体の育成） 体力テストの結果は概ね目標を達成していますが、運動習慣の二極化や、メディア利用長時間化に伴う「早寝早起き」の乱れが課題である。また、今年度は虫歯治療率の低下も懸念される。今後は、楽しみながら運動できるサーキットや外遊びの仕掛け作りで体力の底上げを図りつつ、家庭と連携したメディアコントロール指導や歯科受診の啓発を強化し、基本的な生活習慣の改善と心身の健康保持に努める。</p> <p>4. 食育（望ましい食習慣の形成） 給食残食ゼロの継続や弁当の日、栽培活動を通じて、食への関心と実践力は高まっている。アレルギー対応も事故なく徹底されているが、生産者等への感謝の心の表現にはさらに深める余地がある。今後は、調理員等へ感謝を伝える児童の姿を広報して意識向上を図りつつ、栽培から実食までの体験活動を継続し、徹底した安全管理のもとで、感謝の心と豊かな食習慣の育成を両立させる。</p>
-------------------------	--